

2024年11月期 第2四半期

決算説明会資料

見えないけれど、あなたのそばに



01

2024年11月期 第2四半期決算概要

02

2024年11月期 業績予想

03

中期経営計画 P&D2030

04

参考資料

外部状況

雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復がみられる一方で、世界的な金融引締めや中国経済の先行き懸念、海外景気・円安や物価上昇による影響などにより、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

売上高

化成品の売上げが大幅増、電子材料は微増となりました。一方で機能化学品の売上げが減少しました。この結果、売上高は前年同期比7.5%増加の、153億3千8百万円となりました。

営業利益

昨年完成した半導体材料製造設備などの減価償却費が増加し、営業利益は、前年同期比4.1%減少し、18億5千9百万円となりました。

(百万円)

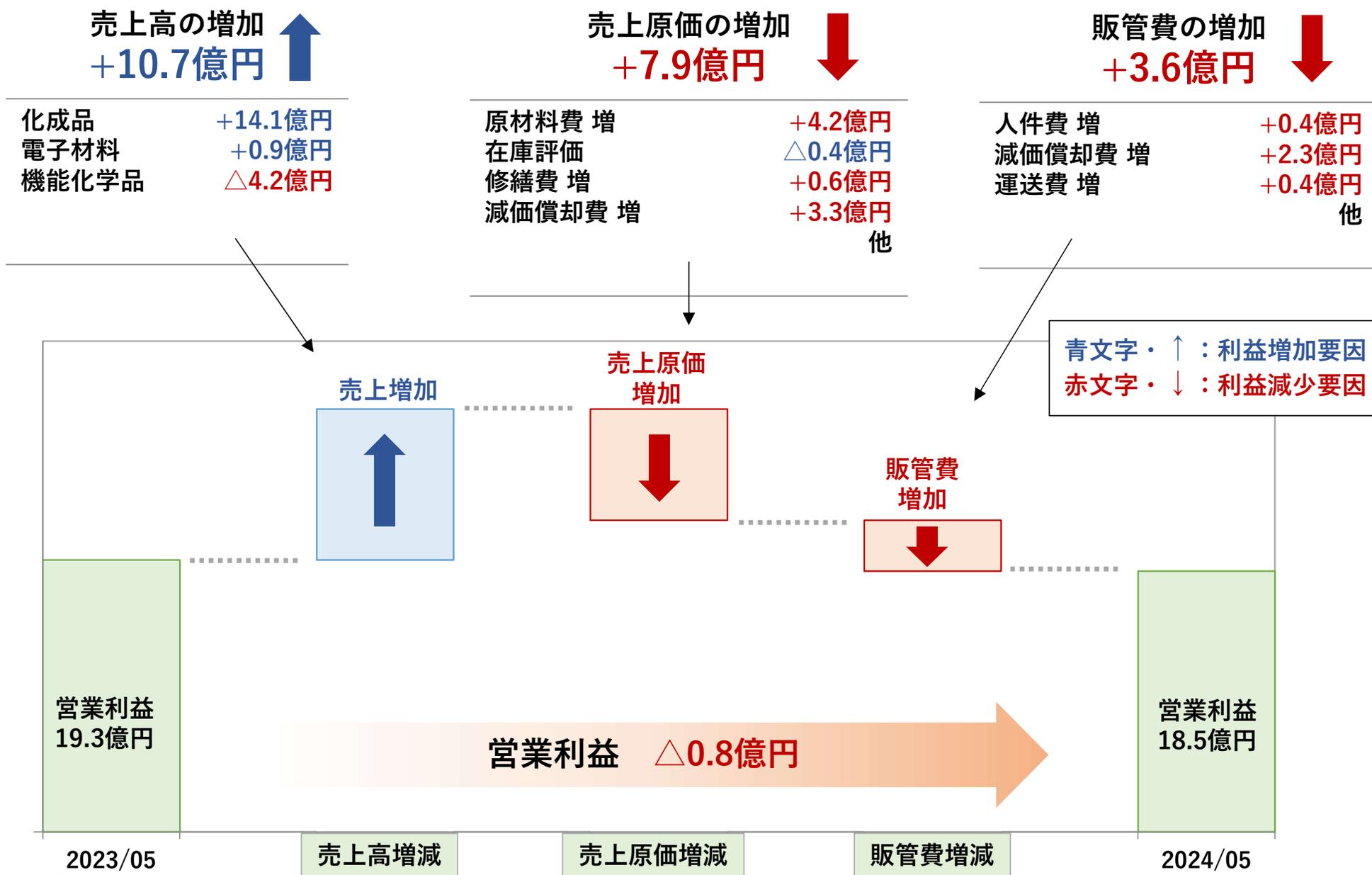
	2023/05 実績	2024/05 予想値 (6/26修正値)	2024/05 実績	前年同期比	
				増減額	増減率
売上高	14,262	15,300	15,338	+1,075	+7.5%
営業利益	1,939	1,850	1,859	△79	△4.1%
経常利益	2,074	1,950	1,988	△85	△4.1%
純利益*	1,606	2,000	2,020	+413	+25.8%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	66,750	(70,000)	75,750	—	—
為替 (¥/\$)	134	(145)	150	—	—

* 親会社株主に帰属する四半期純利益

カッコ内は当初の想定値

営業利益の増減要因

化成品の売上げが大幅増となりましたが、減価償却費の増加が大きく影響し、営業利益は0.8億円の減少となりました。



■ 化成品

自動車用塗料向けの販売は減少しましたが、ディスプレイ用粘着剤向けやUVインクジェット用インク向けの販売が大幅に増加し、売上高・営業利益ともに前年比で大幅に増加しました。

■ 電子材料

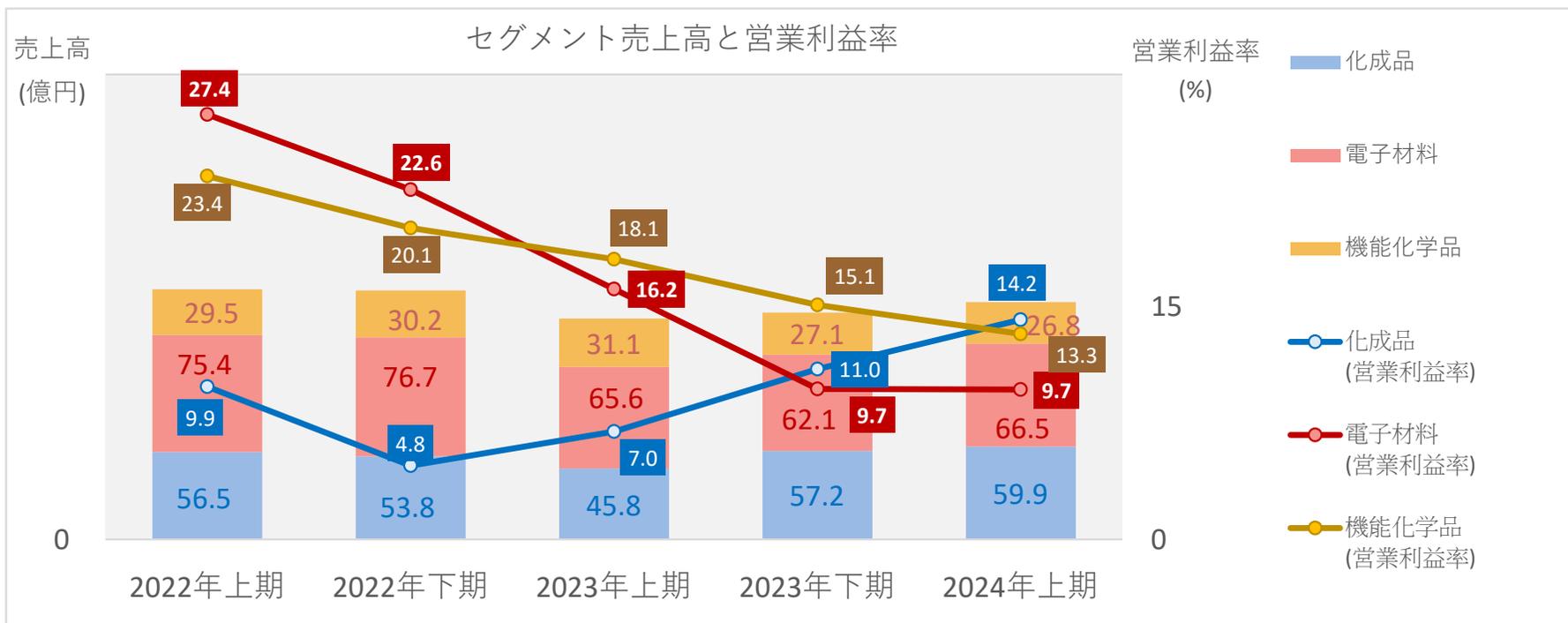
半導体材料は、在庫調整が長期化し、回復の兆しは見られるが前期比では減少しました。表示材料は、タッチパネル用絶縁膜向けの販売が増加。減価償却費増加の影響で前年比では増収・減益となりました。

■ 機能化学品

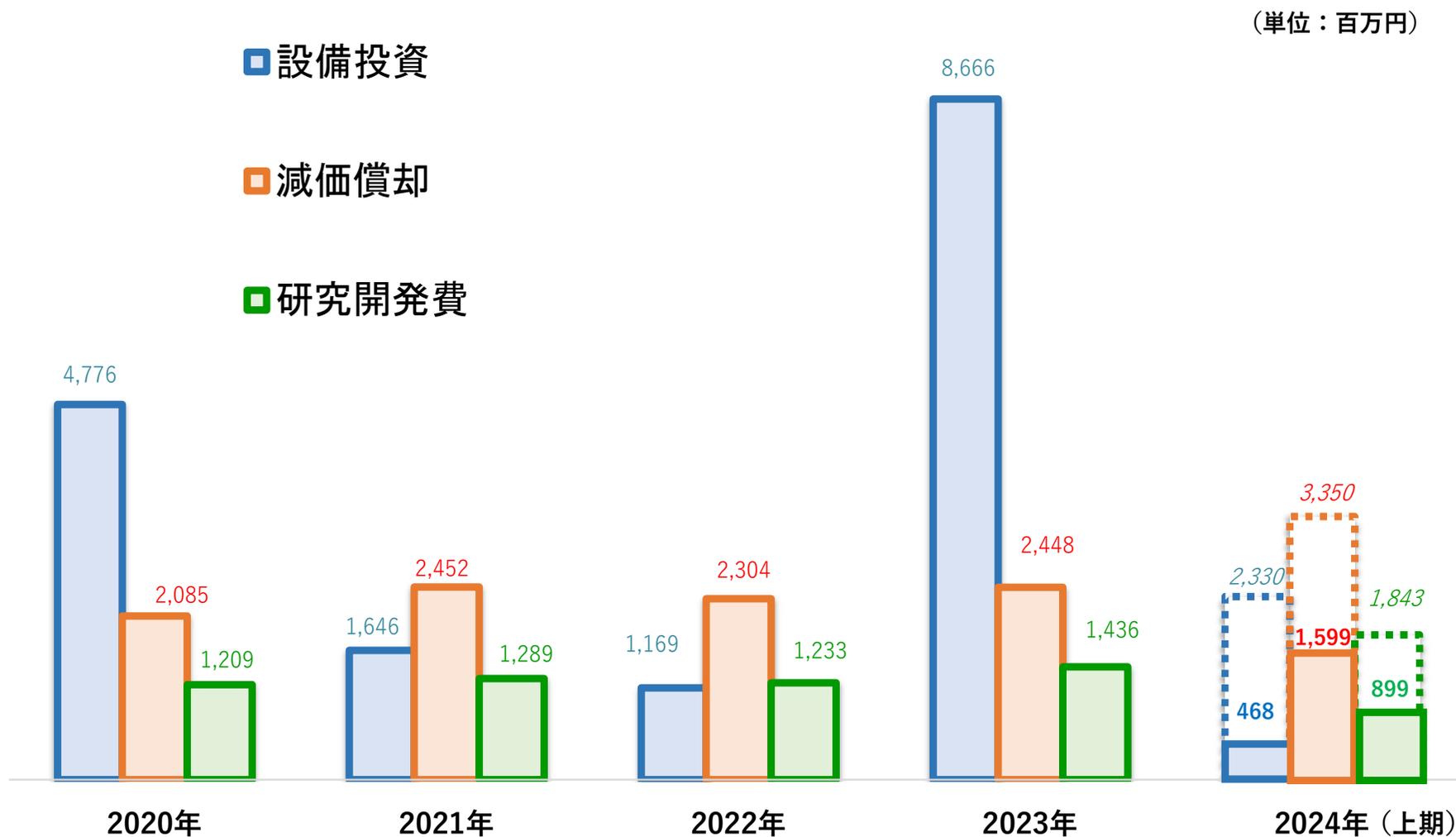
化粧品原料は海外で堅調に推移。機能材料は、受託品の販売が減少しました。子会社の高純度特殊溶剤の販売は減少しました。前年比では減収・減益となりました。

(億円)

	化成品	電子材料	機能化学品
売上高	59.9 (YoY: +30.8%)	66.5 (YoY: +1.4%)	26.8 (YoY: △13.8%)
営業利益	8.4 (YoY: +166.2%)	6.4 (YoY: △39.3%)	3.5 (YoY: △36.7%)



2023年には半導体材料製造設備増強などで、86.6億円の設備投資を行いました。
 その影響により、2024年は減価償却費が大幅に増加しています。
 半導体材料試験研究設備の減価償却費が増加した影響で、研究開発費も増加しました。



*点線は通期予想

01 2024年11月期 第2四半期決算概要

02 2024年11月期 業績予想

03 中期経営計画 P&D2030

04 参考資料

2024年6月26日に業績予想の修正を行い、2024年11月期の売上高は320億円、営業利益は42億円と予想しております。

上期における業績予想に対する進捗率は、売上高が47.9%、営業利益は44.3%となっておりますが、下期に半導体材料の回復を見込んでいるため、概ね順調に推移しています。

(百万円)

	2023年11月期 実績	2024年11月期 予想 (6/26修正値)	前年実績比		2024年11月期 上期実績	半期 進捗率
			増減額	増減率		
売上高	28,907	32,000	+3,093	+10.7%	15,338	47.9%
営業利益	3,577	4,200	+623	+17.4%	1,859	44.3%
経常利益	3,877	4,400	+523	+13.5%	1,988	45.2%
純利益*	3,270	3,700	+430	+13.1%	2,020	54.6%
国内ナフサ (¥/KL) (当社推定)	68,150	(70,000)	—	—	75,750	—
為替 (¥/\$)	140	(145)	—	—	150	—

*親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益

カッコ内は当初の想定値

2024年上期 売上高	通期予想 (6/26修正値)	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率																						
<p>59.9億円</p>	<p>120.0億円</p>	<p>49.9%</p>	<p>■ 売上高 ● 営業利益率 (右軸)</p> <table border="1"> <caption>売上高・営業利益率の推移</caption> <thead> <tr> <th>期</th> <th>売上高 (億円)</th> <th>営業利益率 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年上期</td> <td>56.5</td> <td>9.9</td> </tr> <tr> <td>2022年下期</td> <td>53.8</td> <td>4.8</td> </tr> <tr> <td>2023年上期</td> <td>45.8</td> <td>7.0</td> </tr> <tr> <td>2023年下期</td> <td>57.2</td> <td>11.0</td> </tr> <tr> <td>2024年上期</td> <td>59.9</td> <td>14.2</td> </tr> <tr> <td>2024年下期 (予想)</td> <td>60.1</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(点線：予想値)</p>		期	売上高 (億円)	営業利益率 (%)	2022年上期	56.5	9.9	2022年下期	53.8	4.8	2023年上期	45.8	7.0	2023年下期	57.2	11.0	2024年上期	59.9	14.2	2024年下期 (予想)	60.1	-
期	売上高 (億円)	営業利益率 (%)																							
2022年上期	56.5	9.9																							
2022年下期	53.8	4.8																							
2023年上期	45.8	7.0																							
2023年下期	57.2	11.0																							
2024年上期	59.9	14.2																							
2024年下期 (予想)	60.1	-																							
<p>● 外部環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車生産は、回復基調が続いてきたが、今年に入ってやや停滞。 ディスプレイ関連は、大型テレビや車載向けが堅調。 UVインクジェット市場も堅調に推移。 <p>● 当社の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 中国など海外への売上げが伸長。 製品統廃合により利益率も大きく改善。 自動車用塗料向けの販売は減少。 ディスプレイ用粘着剤向けの販売が大幅増。 UVインクジェット用インク向け材料の販売も前年比で増加。 バイオマスアクリレートも順調に伸長。 <p>● 市場におけるリスク</p> <ul style="list-style-type: none"> 原油価格の高止まり。 天然由来原料相場の高騰。 																									

2024年上期 売上高	通期予想 (6/26修正値)	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
66.5 億円	147.0 億円	45.2%	

●外部環境

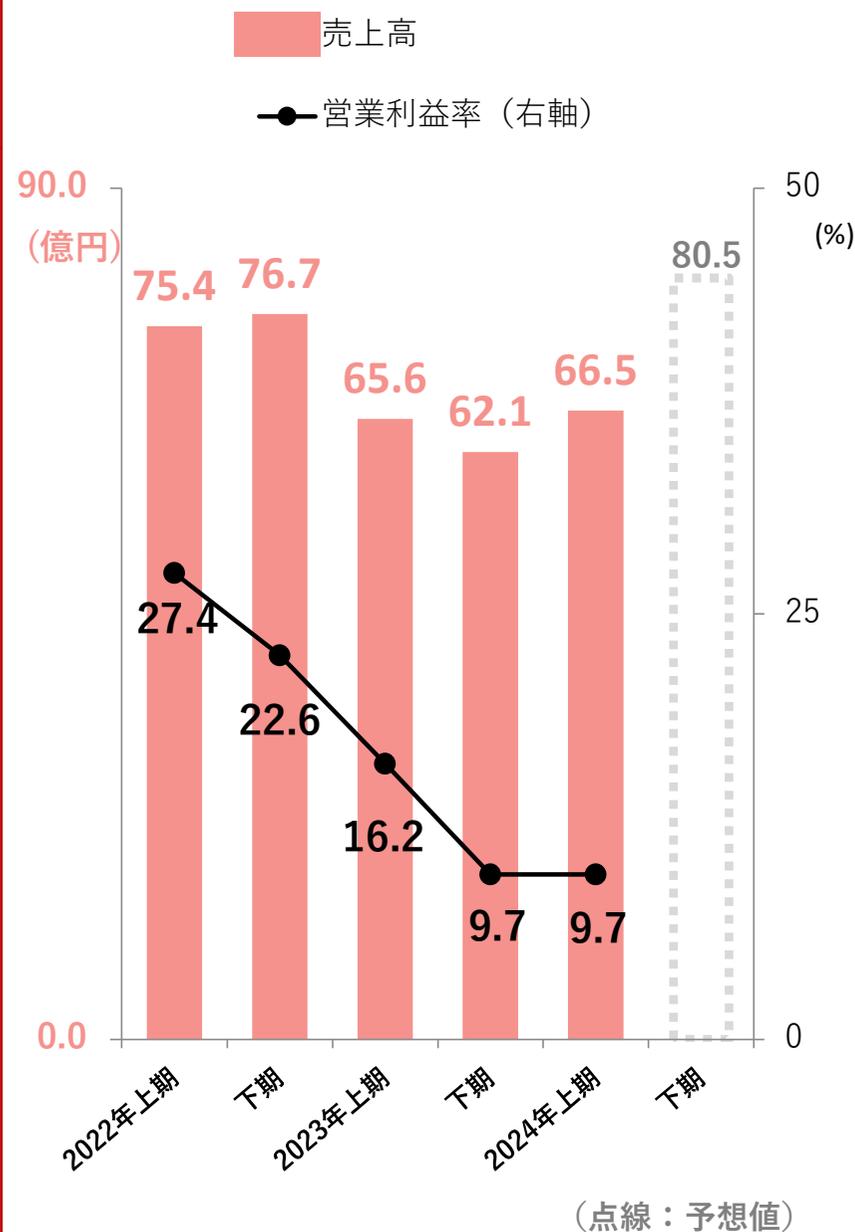
- ・半導体市場は、市況の回復傾向がみられている。
- ・最先端のEUV材料は実用化が進展。
- ・ディスプレイ関連は大型テレビや車載向けが堅調。
- ・パソコン、スマホ市場は停滞。

●当社の状況

- ・半導体材料は、回復の兆しは見られるが前年比ではマイナス。
- ・EUV用途の材料は上期も順調に増加。
- ・表示材料グループは、タッチパネル用絶縁膜向けの販売が増加。

●市場におけるリスク

- ・米中経済対立の激化。



2024年上期 売上高	通期予想 (6/26修正値)	進捗率 vs 通期予想	売上高・営業利益率
26.8 億円	53.0 億円	50.7 %	

●外部環境

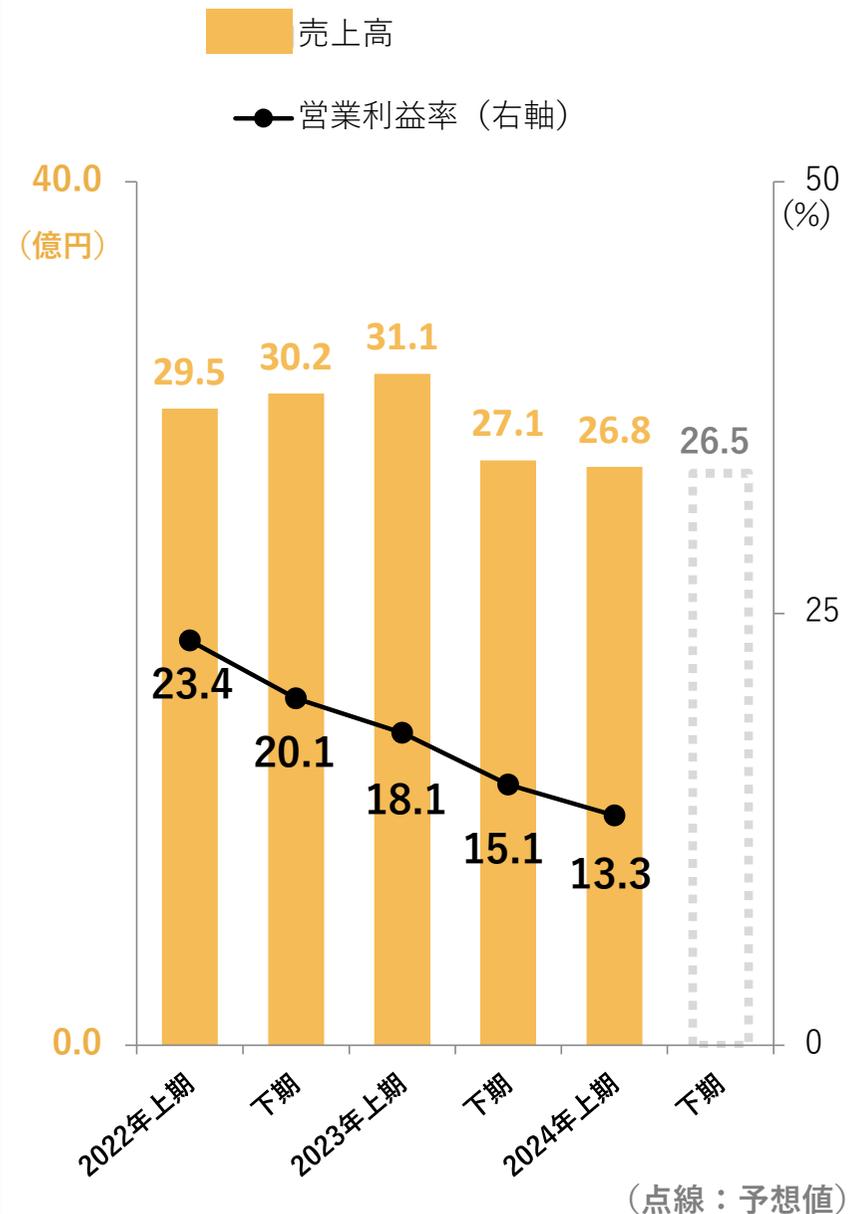
- ・国内はインバウンドも回復し、化粧品市場は堅調。
- ・東南アジアの景気は概ね堅調に推移。
- ・中国では景気持ち直しに足踏みがみられる。
- ・欧米の化粧品市場もゆるやかに成長。

●当社の状況

- ・化粧品原料の販売は、海外で好調に推移。
- ・機能材料グループは、受託品の販売が減少。
- ・子会社の高純度特殊溶剤の販売は減少。

●市場におけるリスク

- ・中国市場における新興メーカーの台頭。



01 2023年11月期 第2四半期決算概要

02 2023年11月期 業績予想

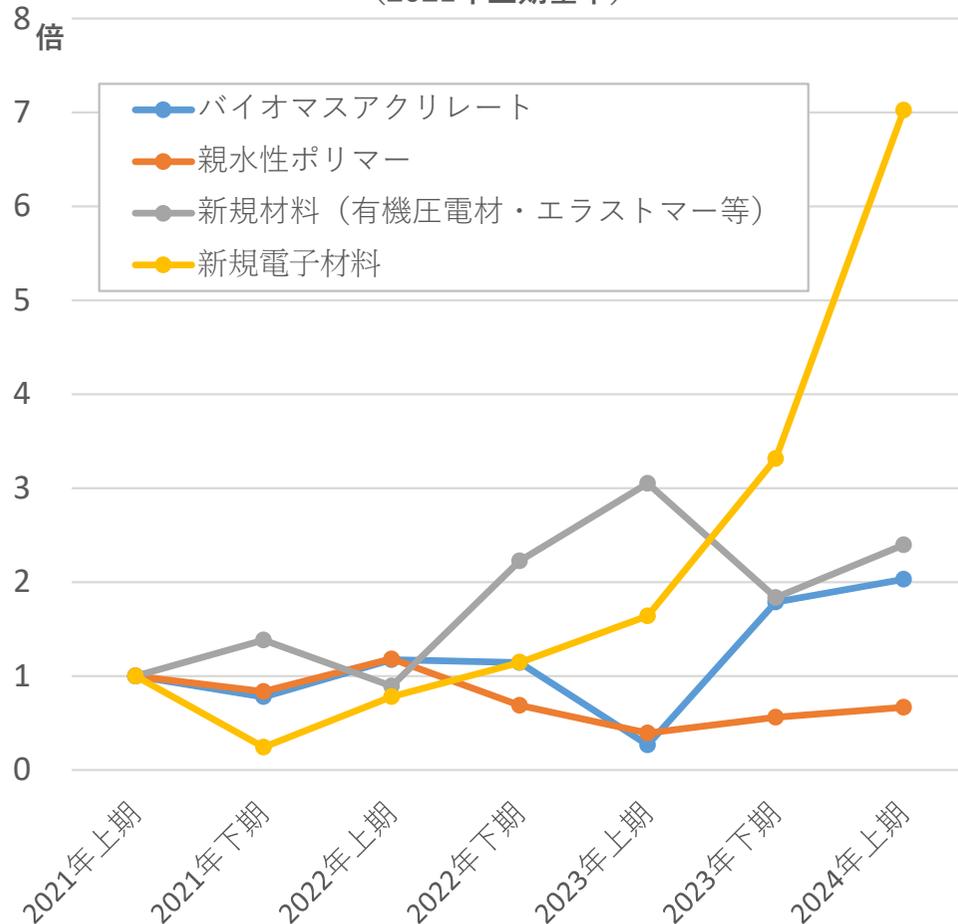
03 中期経営計画 P&D2030

04 参考資料

P&D2030の基本戦略として、重点領域の製品群の拡充に注力しています。表示材料で培った技術を生かした新規電子材料関連は採用品目も増えており、売上高は2021年上期基準で7倍以上に増加しています。また、植物由来の原料（非石化原料）を使用した特殊アクリレート（バイオマスアクリレート）や、エラストマー・有機圧電材料などの新規材料も徐々にではありますが、売上高も増加しており、2021年上期基準で2倍以上になっています。他にも、曇り止めや汚れ防止に役立つ親水性ポリマーの用途展開や拡販にも注力しています。

重点領域の製品群の売上高増加割合

(2021年上期基準)



【重点領域の製品群と特徴】

重点領域の製品群	特徴など
バイオマスアクリレート	植物由来の原料（非石化原料）を使用した特殊アクリレート。環境負荷低減に貢献。
親水性ポリマー	曇りにくく、汚れにくくなる特性を生かして、眼鏡や防犯カメラの曇り止めなどに展開。
新規材料	当社の技術を生かした新素材。エラストマーや有機圧電材料で新規市場への参入を目指す。
新規電子材料	表示材料で培った技術を周辺分野へ展開。

中期経営計画（P&D2030）の基本戦略で、「海外戦略の強化」を掲げ、アジア・アメリカへの拡販に注力しています。

【中国市場】

光碩（上海）化工貿易有限公司を中心に拡販を進めており、2024年上期の中国向け売上高は、2019年上期比で4.6倍になりました。

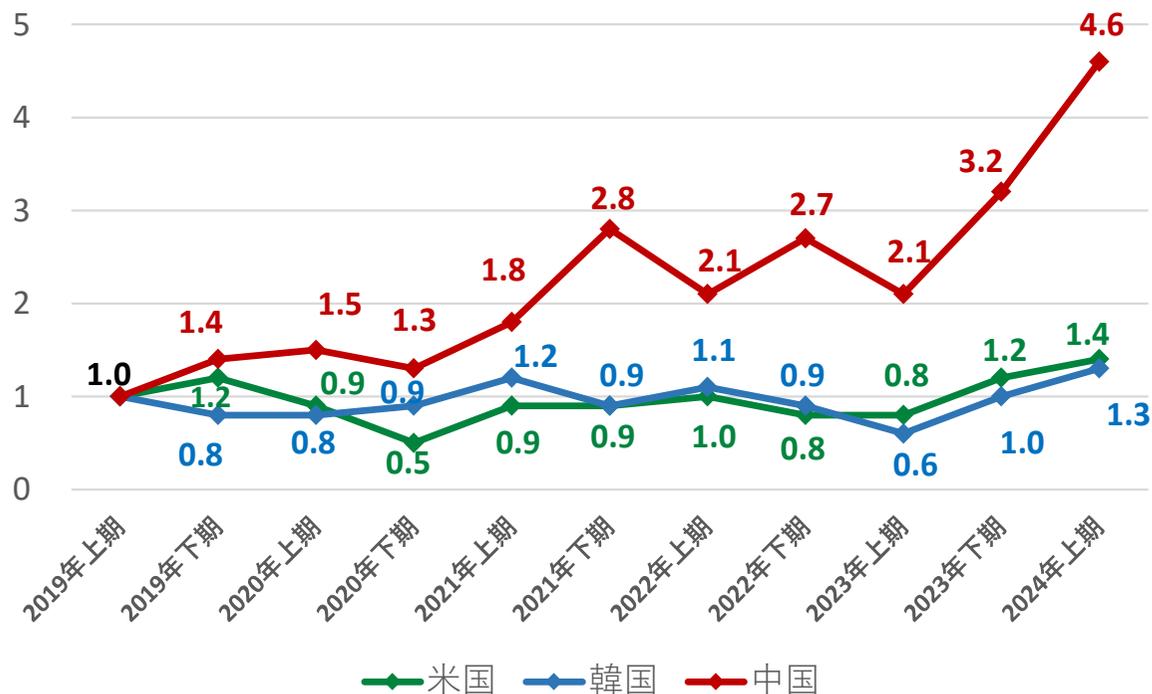
【韓国】

2022年に韓国連絡事務所を開設し、市場調査などを進めてきました。今後、電子材料を中心に需要の増加が見込まれるため、8月（予定）に現地法人を設立し、販売体制の強化を図ります。

【米国】

米国についても拡販強化のため、拠点の整備を進めていく計画です。

海外売上高の増加割合（2019年上期 基準）

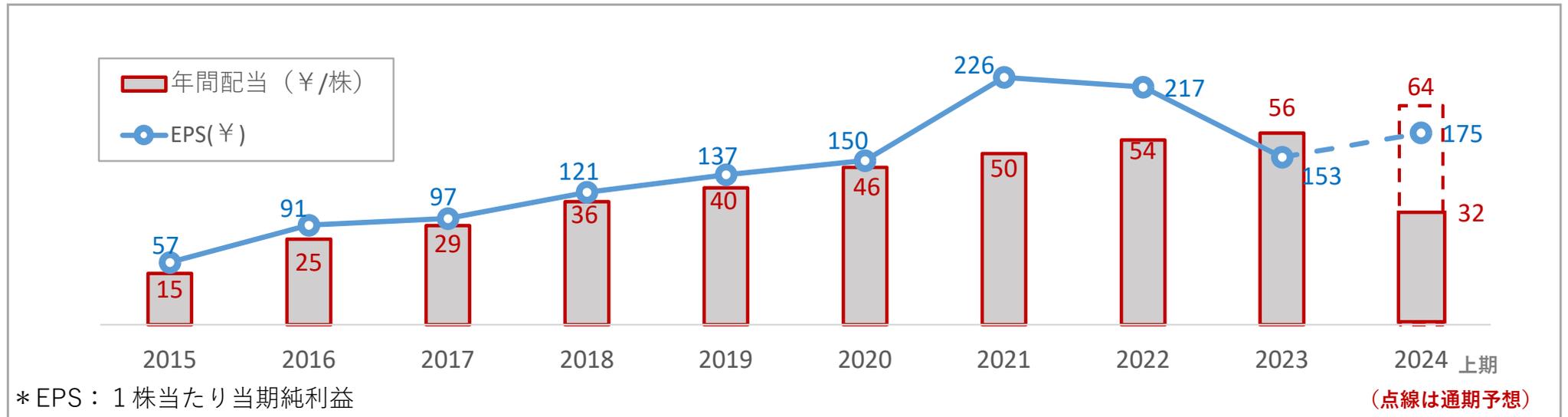


韓国現地法人

商号：韓国大阪有機化学工業株式会社
 Osaka Organic Chemical Industry Korea Ltd.
 所在地：大韓民国ソウル特別市
 代表者：小笠原 元見
 設立：2024年8月（予定）
 事業内容：有機化学薬品関連商材の貿易・販売等
 資本金：800,000,000 ウォン
 出資比率：当社 100%



これまで、中期経営計画の施策を着実に進めることにより利益性を高めてきました。2023年は電子材料を中心とする市況の悪化などにより一時的に各指標は悪化しましたが、2024年11月期よりスタートした新中期経営計画（P&D2030）の基本戦略を着実に遂行し、新たなステージへの飛躍を目指します。配当性向40%を目安とし、機動的な自己株取得を行うことで、株主還元の向上につなげて参ります。2024年11月期の一株当たりの配当は、中間32円、期末32円の計64円と予想しています。



会計年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024 通期予想
PBR	0.55	0.68	1.00	1.02	0.96	1.85	2.09	1.12	1.32	—
営業利益率 (%)	6.7	10.3	12.1	12.5	12.8	15.5	16.7	18.4	12.4	13.1
ROE (%)	5.3	7.8	7.7	8.9	9.7	9.9	13.6	11.9	7.8	8.4
EPS(¥)	57	91	97	121	137	150	226	217	153	175
年間配当 (¥/株)	15	25	29	36	40	46	50	54	56	64
配当性向 (%)	26.4	27.5	30.0	29.8	29.2	30.8	22.2	24.9	36.6	36.6
総還元性向 (%)	37.9	36.4	30.0	46.5	29.2	30.8	22.2	60.7	54.7	48.1

総還元性向：青字は自己株式取得（*2024年は上期までの取得実績で算出）

01 2023年11月期 第2四半期決算概要

02 2023年11月期 業績予想

03 中期経営計画 P&D2030

04 参考資料

貸借対照表

	(百万円)				
	2023/11	2024/05	増減額		
資産					
流動資産	27,101	30,616	+3,514	現金及び預金 その他	+4,104百万円 △864百万円 他
有形固定資産	20,443	19,507	△935	機械装置及び運搬具(純額)	△952百万円 他
無形固定資産	102	79	△23		
投資その他の資産	6,988	6,889	△99	投資有価証券	△102百万円 他
資産合計	54,636	57,092	+2,455		
負債					
流動負債	7,098	8,600	+1,502	支払手形及び買掛金 1年内返済予定の長期借入金 未払法人税等	+802百万円 △635百万円 +575百万円 他
固定負債	3,909	3,694	△215	長期借入金	△209百万円 他
純資産	43,629	44,797	+1,167		
負債純資産合計	54,636	57,092	+2,455	利益剰余金 自己株式	+1,424百万円 △419百万円 他

財務指標	2024/05時点
自己資本比率	77.3%
手元流動性比率	4.1ヵ月
DEレシオ	0.10
ネットDEレシオ	-0.19
インタレスト・カバレッジ・レシオ	1,218倍

営業外損益

< 営業外収益 >

為替差益が前期より増加しました。
前期にあった受取保険金が今期はありません
でした。

< 営業外費用 >

今期は能登半島地震の被災者支援のための寄
付を行いました。

特別損益

< 特別利益 >

投資有価証券売却益が増加しました。

< 特別損失 >

前期と比べて大きな変動はありませんでした。

(百万円)

青字：利益増加要因
赤字：利益減少要因

	2023/05	2024/05	増減額		
営業外収益	142	154	+11	→	為替差益 +65百万円 受取保険金 △48百万円 他
営業外費用	8	25	+17	→	寄付金 +20百万円 他
特別利益	248	815	+566	→	投資有価証券売却益 +567百万円 他
特別損失	0	1	+0		

(百万円)

	2023/05	2024/05
営業活動によるCF	2,020	5,473
投資活動によるCF	△990	460
財務活動によるCF	△2,074	△1,906
現金及び現金同等物に係る 換算差額	2	77
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,041	4,104
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,022	11,995

[主な内訳]

税金等調整前四半期純利益	2,802百万円
減価償却費	1,589百万円
投資有価証券売却損益(△は益)	△815百万円
仕入債務の増減額(△は減少)	772百万円
未払又は未収消費税等の増減額	932百万円
他	
投資有価証券の売却による収入	1,054百万円
有形固定資産の取得による支出	△593百万円
他	
長期借入金の返済による支出	△1,044百万円
自己株式の取得による支出	△427百万円
配当金の支払額	△595百万円
他	

<見通しに関する注意事項>

- 本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。
- 従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があります、いかなる確約や保証を行うものではありません。

【お問い合わせ】

管理本部 IR・広報担当

TEL 06-6264-5071 (代表)



“特殊アクリル酸エステル”のリーディングカンパニー

大阪有機化学工業株式会社

東証プライム：4187